

令和6年度第3回平塚市文化振興懇話会会議録

【日 時】 令和7年3月18日（火）10:00～11:30

【会 場】 中央公民館 3階大会議室

【出席者】 構成員7名（敬称略） : 沖野成紀、丸島隆雄、平野恵美子、木村一彦、
岩崎由紀子、加藤宏、高橋孝祥
市職員4名（事務局） : 小峰市民部長、柴崎文化・交流課長、
武井文化振興担当長、荒原主管
傍聴人 : なし

会議次第

1 開会

2 市民部長あいさつ

3 参加者紹介

4 座長・副座長の選任

座長（沖野氏）、副座長（平野氏）が選任された。

傍聴人の確認

傍聴希望者がいなかったことを事務局から座長へ報告した。

5 議題

（1）平塚市の文化行政について

○事務局説明要旨

- ・資料（1）に基づき説明
- ・平塚市では市民部文化・交流課と教育委員会の社会教育部で役割分担をして文化行政に取り組んでいる。
- ・文化・交流課では、ひらしん平塚文化芸術ホールの管理運営のほか、文化情報誌の発行、平塚市文化振興基金の管理・活用、囲碁文化の振興や、まちづくり財団の文化事業への補助を行っている。

●文化情報誌たわわ

- ・平塚市にゆかりのある人・活動を、文化の観点から取り上げ、市民に紹介している。
また、工芸や文化財をはじめ、音楽、美術、アート、ダンスの他、姉妹都市であるカウナス市の紹介も取り上げている。

●小学校アウトリーチ事業

- ・市内小学校に、プロの演奏家を派遣して、身近なところで音楽に触れてもらっている。
令和6年度は6校で7日間実施した。

●平塚市文化振興基金

- ・市民文化の振興を図るために必要な長期的・安定的財源を確保するため、平成6年度に創設し、令和6年度までに445件、70,800,878円の寄付をいただいている。
- ・令和6年4月1日時点の基金残高は30,383,027円となっている。
- ・この基金は、小学校アウトリーチ事業、平塚市まちづくり財団と連携して実施する囲碁文化振興事業、文化振興補助事業等に活用している。

●囲碁のまちづくり

- ・平塚市にはかつて木谷實九段が開設した木谷道場があったことから、囲碁を本市の特色ある文化と位置づけ、平塚市まちづくり財団に委託し、年間を通して囲碁大会、囲碁教室等を開催し、囲碁文化の振興を図っている。令和6年度は「湘南ひらつか囲碁まつり」で6年ぶりに懇親会を開催できた。3月16日にはひらしん平塚文化芸術ホール2階の木谷實・星のプラザでプロ棋士指導碁を初めて開催した。その他の事業についても、子ども囲碁大会や女流棋聖戦大盤解説会、各種囲碁教室など予定どおり開催した。

●公益財団法人平塚市まちづくり財団の事業

- ・文化芸術の振興を図るため、平塚市まちづくり財団に補助金を交付し、財団が普及振興事業を実施している。

●ひらしん平塚文化芸術ホールの運営

- ・令和4年3月26日に開館し、令和4年度からは一般利用が開始され、多くの方に利用されるとともに、ホール主催の事業も多数開催し、市内外から多くの方が参加され、文化芸術の新たな拠点として様々な文化芸術の鑑賞・体験・発表の場として活用され、周辺の賑わいを創出している。詳細については次の議題で報告する。

○質問・意見等

構成員：文化振興基金について、令和6年度の寄付金112,022円の内訳は。

事務局：毎年寄付を頂いているしんわ本人自治会連合会さんから60,000円、竹遊会さんから30,000円、それから演劇フェスティバル会場での募金が1,400円、サンタクロースの贈り物Ⅳ会場での募金が20,622円である。

構成員：個人からの寄付はないか。

事務局：令和6年度は個人からの申し出による寄付はない。

構成員：競輪場から教育委員会を通じて文化連盟に、8月のオールスター競輪開催期間においてイベント協力の依頼があった。レース間の15分間でステージでの民謡や奇術、剣舞のショーと、なぎさラウンジでの書道・茶道・華道などのワークショップをしてほしいという内容であった。結果的には他の団体の企画が選ばれたので文化連盟では実施しなかった。毎年実施するものであれば、依頼の方法を統一した方がいいのでは。

事務局：文化・交流課では当該イベントへの協力依頼について承知していなかった。所管課と情報共有をしたい。

座長：これまでの意見をまとめる

- ①文化振興基金の寄付について質問があった。
- ②競輪場イベントへの協力依頼の方法について意見があった。

(2) ひらしん平塚文化芸術ホールの運営状況について

○事務局説明要旨

- ・資料(2)に基づき説明。
- 令和5年度・6年度の利用状況
 - ・令和5年度の実績として、貸出施設の利用者数は累計で140,013人で、前年度から18,424人の増となった。
 - ・令和6年度は1月までの実績で、累計で117,342人であった。
 - ・令和5年度の各施設の利用率は、大ホールは64.2%、多目的ホールは65.3%、全施設平均では57.8%となっていて、前年度と比較すると全施設平均では8.6%の増となった。
 - ・令和6年度1月末時点の利用率は、全体で63.6%となっている。
- 令和6年度実施事業について
 - ・指定管理者が実施する事業には、市の指定管理料を充てて実施する主催事業と、指定管理者の自主企画としてチケット収入の責任を負う自主事業の2種類がある。
 - ・令和7年1月末現在で主催事業は14,632人の参加があり、自主事業は4,746人の参加があった。

○質問・意見等

構成員：文化芸術ホールの2階に木谷實の展示や平塚を紹介するコーナーがあるが、その周りの机を中高生が利用しているのを見かけた。このスペースの利用の仕方はどうなっているか、また利用状況はどうか。

事務局：申込不要のフリースペースとなっている。開館当初から幅広い年代の多くの方が利用して頂いていて、勉強やテレワーク、打ち合わせなどで使っている。電源が使える席もあり人気のスペースであり、利用が増えている。皆さんで使ってもらえるように利用ルールを検討しながら運用している。

構成員：とてもいいスペースだと思った。大学図書館でも、ラーニング・コモンズと違って、本や資料を読むだけでなく、会話しながら学ぶ機能を持つという傾向がある。ここもそういうスペースになっていくのかもしれない。

事務局：色々な方の居場所となってきている。

構成員：令和8年9月末で中央公民館が休館となれば更に混雑するだろう。どういった対応を考えているか。

事務局：ルールづくりについては、指定管理者と検討して考えていきたい。

座長：オープンライブに東海大学芸術学科の学生が出演したので見学した。その時に多目的ホールのエントランス側の壁をあけてオープンに演奏していたので、全館に音楽が響いていた。2階にあがってみたら、フリースペースでは特に気にせずに勉強や作業をしている利用者の姿が見られた。きっといつものことだと気にしていないのだろうが、新鮮な状況だなと感じた。

事務局：オープンライブについてフリースペース利用者から特に苦情を受けたことはない
ので、気にしていないか、楽しんでいるのではないかと思う。鑑賞に来られてい
ないフリースペースの利用者も音楽など文化芸術に自然と触れられる環境がこの
ホールの特徴の一つとなっている。

座 長：とても興味深い環境だと思う。

構成員：自主事業の浪曲公演は2月の事業なので資料には参加人数が掲載されていない
が、参加人数は本日時点で把握されているか。

事務局：資料には間に合わなかったが、確認できている。116人である。

構成員：絵本講座や紙芝居講座の対象は誰か？

事務局：主に未就学の子とその保護者である。キッズルームで実施している。毎回申し込
みを締め切るほどの人気の事業である。

構成員：レセプションист養成講座は毎年実施していて、かなり多くの方が受講されてい
るが、受講者にホール主催事業以外の団体の事業で協力してもらうことはできな
いか。

事務局：他事業へのあっせんを前提として募集をしていないので、指定管理者と検討しな
いといけない。

座 長：これまでの意見をまとめる

- ①フリースペースの利用方法と利用状況について質問があった。
- ②オープンライブでのフリースペース利用者の状況について報告があった。
- ③中央公民館休館後のフリースペースの混雑対策について意見があった。
- ④浪曲公演の実績について質問があった。
- ⑤絵本講座・紙芝居講座の対象者について質問があった。
- ⑥レセプションист養成講座受講者のあっせんについて質問があった。

（３）平塚市文化芸術振興計画（中間見直し）の策定及び進捗状況について

・資料（３）、（４）に基づき説明。

●平塚市文化芸術振興計画（中間見直し）の策定について

- ・パブリックコメント手続きでは意見の提出はなかった。
- ・7月の第1回文化振興懇話会で説明した内容から大きな変更はなかった。
- ・令和7年2月に策定した。

●令和5年度事業進捗状況管理表についての懇話会意見について

- ・前回文化振興懇話会で意見のあった3件の項目について、所管課の回答を説明した。
- ・12月に令和5年度の進捗状況管理表を公表した。

○質問・意見等

座 長：懇話会からの意見で、部局間連携を庁内検討会議のテーマにしていきたいと回答が
あったが、具体的に事例などがあがったか。

事務局：中央図書館からリトアニアウィークや岡野金次郎碑前祭といった他課事業との連
携企画展示の実施、産業振興課からは災害対策課との連携で朝市での起震車体験、

や防災意識の啓発、文化・交流課から、文化芸術ホールでの美術館連携展示などの事例が共有された。

座長：既にいくつかの部局間連携事例があるということか。

事務局：既に連携している事例もあるが、もっと増やしていくために、お互いに声をかけて連携していこうという話を庁内検討会議でおこなった。

構成員：ハマヒルガオは平塚だけに自生している植物か？大磯町の町の花となっているが大磯にも自生していれば平塚と海岸がつながっている所以湘南の海岸がピンクに染まっていいと思うが。平塚独自のものであればより力を入れて欲しい。

事務局：事務局では自生の範囲まで把握していないので担当課に確認したい。

構成員：文化事業を実施するうえで、市民の声はどう吸い上げているか。

事務局：一般的には来場者アンケートなどがあるが、各課で実施している事業については把握できていないが、文化芸術ホールではアンケートを取っている。

構成員：市民は文化事業に関するアイデアを持っても、市のどこに相談すればいいかわからない。例えば、豊橋市では村井弦斎さんを NHK の朝の連続ドラマのテーマにしようという動きがあり、実際にドラマ化された事例がある。そういったアイデアがあったときにどこに相談すればいいか。木谷實さんをドラマ化するのも面白いと思う。NHK の朝の連続ドラマは近代史で活躍した人をモデルにしているものもある。ドラマ化が実現がしなくても、そういった活動があれば求心力になると思う。

事務局：一般的に市へのご意見や要望であれば、「市長への手紙」やホームページの「FAQ」をご利用頂くことができる。地域の偉人などのドラマ化といった話なら広報課のシティプロモーション担当が相談先の1つとして考えられる。

構成員：黒澤明監督の「乱」という映画を撮っている時に、メイキング風景が昔撮影された。その撮影者である映画監督が、そのメイキング風景を映画にっていて、上映場所を探していた。美術館のミュージアムホールでの開催を市に相談して、検討していたが条件が合わなかった。その後令和8年度に文化芸術ホールの事業として実施できそうだという情報がある。

事務局：令和8年度の事業の提案はまだこれからなので承知していないが、今後提案があるかもしれない。

構成員：世界初の公開が平塚でとなるので実現できればいいと思う。

事務局：所管課にご意見を伝えて確認する。

座長：これまでの意見をまとめる

- ①部局間連携の事例を共有していることを確認した。
- ②ハマヒルガオが固有種かどうか質問があった。
- ③文化事業についての市民の意見を吸い上げる方法について質問があった。
- ④地域の偉人のドラマ化についての提案があった。
- ⑤黒澤明監督の記録映画の実施について情報提供があった。

座長：以上で議事を終了する。

6 事務連絡

その他

構成員：令和6年度第1回会議で、平塚市文化芸術振興計画中間見直しについての議事において、経済界のアンケートでは36～40%の回収率が多いと発言したが、30～36%に訂正したい。

事務局：今回の議事録において第1回の議事録を訂正する。

7 閉会